

事業報告書

事業名	鳥羽市答志島における親子ワーケーション実証実験および 関係人口創出事業
-----	--

1 事業の実施概要

実施内容	鳥羽市の課題解決のために、以下の事業を実施しました。
	子育て中の母親（リモートワーカー）とその子どもを対象に、鳥羽市答志島での3日間の「親子ワーケーション」実証実験を実施しました。単に場所を変えてテレワークを行うだけでなく、地域の日常的な生業である「わかめ漁」への参加や、島民との交流などを組み込みました。働きながら子どもに地域特有の体験をさせることで、参加者の満足度や仕事の生産性、地域との継続的な関係性構築（関係人口創出）の可能性と課題を検証しました。
事業期間	2026年1月8日～2026年3月13日

2 事業実施の成果

鳥羽市の課題	事業により、
	・本物の体験の価値： 観光用に作られたプログラムではなく、実際のおかめ漁などの「本気の仕事」に人員として加わる体験が、子どもに高い満足度と自己肯定感をもたらすことが分かりました。親にとっては、仕事の環境整備以上に、子どもに「価値観の幅を広げる体験」や「不自由さの体験」を提供できることがワーケーションの最大の価値であると確認されました。

	<p>・属人的なコーディネートの重要性：ハード面（ネット環境や施設）の充実以上に、島と訪問者を繋ぎ、昼食場所の案内や島民との交流をサポートする「頼れる現地コーディネーター」の存在が不可欠であることが確認されました。</p> <p>・子どもの見守り体制の課題：親が日中に仕事へ集中するためには、特に未就学児等が安全に過ごせる見守り体制（地域住民や学生ボランティアとの交流など）が必要であることが判明しました。</p> <p>・宿泊施設等におけるハード面の改善点：子どもが寝た後に親が仕事をするための空間的な仕切り（カーテンなど）や、適切な作業デスクの確保など、親子ワーケーション特有のニーズに応じた工夫が必要であることが分かりました。</p>
	<p>という状況が判明し、鳥羽市の課題が明確になりました。</p>
<p>課題解決の提 言</p>	<p>課題解決のためには、以下のような取組が必要とされます。</p> <p>「仕事」をハブとした関係人口の創出：地域事業者の経理やSNS運用などの業務を、スキルを持つ都市部のリモートワーカー（在宅ワーク支援サービス「エニママ」の登録者）とオンラインでマッチングさせる仕組みを作ること。仕事を通じた継続的な関係性を築くことで、島への再訪を促し、関係人口の増加に繋げることが期待できます。</p> <p>地域と訪問者を繋ぐ窓口の構築：ワーケーション希望者が個人で手配する心理的ハードルを下げするため、事前にエニママ等のプラットフォームを経由して現地のコーディネーターと繋がれる仕組みを整備すること。</p> <p>「日常」を価値としたプロモーション：特別な観光プログラムがなくても、島の人々にとっては日常の生業や、地域全体で</p>

子どもを見守る「サードプレイス」としての環境自体が、都市部の子育て世代には大きな教育的価値になることを積極的に発信すること。

コストをかけない受け入れ環境の改善： 宿泊施設等とフィードバックを共有し、DIY等に対応可能な範囲でのワーケーション環境の整備（プライベートスペースの確保など）を進めること。